

40周年を迎える ふるさとの絆

3月23日、札幌近郊在住の上ノ国町出身者で構成される「札幌上ノ国ふるさと会」（福島久平会長）総会及び懇親会が開催され、会員や本町などからの参加者68人が出席し、親睦を深めました。

今年で40周年を迎えた札幌上ノ国ふるさと会ですが、参加者の方々は40年の月日を越えた上ノ国への想いやお互いの近況を語り合い、終始和やかな雰囲気となりました。



農業の未来へ 明るい光

3月5日、特産品のサヤエンドウの生産性向上を目的とした冬季営農講座が農業指導センターで実施され、参加した33人の方々は、講師から道外状況や病害虫防除の有効な方法などについて説明を受け、熱心に聞き入っていました。

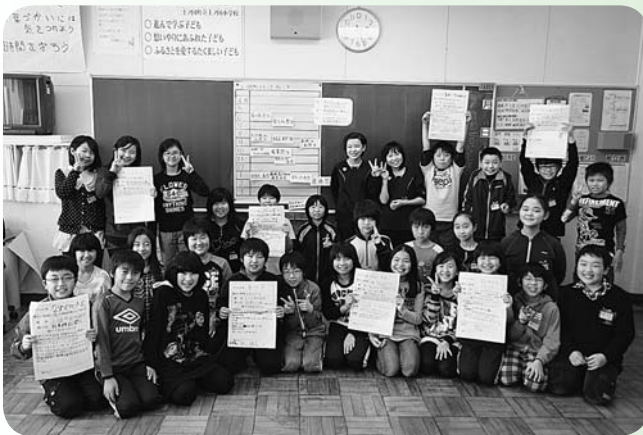
特にサヤエンドウの連作障害を抑制する土壌消毒に関して注目し、道外では一般的となっている農法であることから、5名の農業者が、今年から試験的に導入する意欲を見せていました。



みんなで知る！ みんなで作る！

2月27日、上ノ国小学校4年生が授業の一環として、地域のイベントをもっとよく知るために、町内各所の事業所や役場を訪問しました。

これは自主性の向上と地域の行事を知ることとを目的に、質問する内容や相手を自分たちで決めて行われたものです。訪問した生徒たちは、普段何気なく参加していた町の行事について、仲間と話し合った質問を投げかけ、集めた情報をもとにカレンダーを完成させました。



列車に揺られて ふるさとを眺める

3月2日、函館から江差までのJR江差線をたどり、次代に語り継ぐことを目的とした「乗ってみるべしJR江差線冬号」が開催され、総勢88名の方々が参加しました。

列車内のイベントでは江差線の歴史講座やゆるキャラによるじゃんけん大会が行われ、上ノ国駅ホームでは歓迎セレモニーとして龍焰太鼓が披露されると、列車内からは大きな歓声が上がりました。

また参加者からは「子供のころに思い出がある路線なので、無くなる前に息子と一緒に来れてよかった」との別れを惜しむ言葉もありました。

